



市議会議員
上田由美子
☎ 68-2106
Fax 68-2146



参議院議員
井上さとし



前衆院議員
藤野保史

能登半島地震 市内の被災支援へ

市議会議員 上田由美子

元日の夕方起きた能登半島地震で、能登地方全域、富山県でも氷見市、小矢部市など呉西地域は大きな被害を受けました。能登半島や氷見市、小矢部市でも避難所で避難生活を送る人が多数に上っています。また、親戚に身を寄せている人も多いと予想されます。

日本共産党は地震災害の救援募金に取り組んでいます。ぜひご協力ください。1月8日には憲法を守る小矢部の会など市民団体とともに、アルビス石動駅店横で募金を訴えました。



アルビス石動駅店横で募金の訴え＝8日

揺れが収まってから正得公民館へ

私は、地震が起きたとき、自宅にいました。だんだん激しく揺れる地震に外へ飛び出しました。防災無線は「大地震が発生しました」と呼び掛けていました。

その後、揺れがおさまった時点で、指定避難所である正得公民館へ行きました。振興会役員が集まり、情報収集や公民館の点検をしていました。正得地区内では防犯組合のパトロール車、分団の消防車、駐在所のパトカーが走り回り、家の倒壊がないか、助けを求める人がいないか確認していました。今回の地震災害による避難所は、小矢部市民交流プラザと津沢コミュニティプラザが指定されました。夜は、井戸水の濁りや断水地区、停電の情報が入り、早急な復旧が必要との思いを強くしました。

日本共産党では、生活相談を受けています。お気軽にお問い合わせください。

被害の把握と市へ支援要請

翌2日は、朝7時から電話やメールで、近所の方や友人に無事かどうか、停電、井戸水の濁り、水道の断水がないかを尋ねました。停電は元日の真夜中には復旧したとのことでした。しかし、井戸水の濁りはしばらく続きました。また、家の中の壁がはがれているとの声もありました。

午前9時過ぎには地区公民館での振興会の打合せに参加し、神社の鳥居のズレ、神社の灯籠倒壊や墓石のズレ、民家塀の破損、井戸水の濁りなどの報告がありました。

午前中には、市民プラザの避難所へ行き、昨夜は約370人が避難したと担当職員から聞きました。総務課では、今の被害状況を聞き、水道の断水地区と植生公民館などの給水場所を聞きました。

新学校給食センターに炊飯設備を

12月議会一般質問(2)

【上田市議】新学校給食センターの整備について、2023年度は基本設計を行うとしている。11月には新西創業者支援団地用地での配置計画案が総合計画特別委員会に提出された。それに先立ち、3月の基本計画案では建築後10数年間は炊飯設備を設けず、その間は炊飯業務を民間業者に委託する案が示された。その方が安くつくことも理由の一つということだった。

子どもたちに 農薬・化学肥料なしの給食を

新日本婦人の会小矢部支部が市長に提出した、学校給食の無償化を求める請願署名で、子どもたちの健やかな成長を保障するた

また、振興会がまとめた正得地区地震被害状況の文書をお渡ししました。その際、いなば農協旧正得支所の屋根が破損していることも伝えました。

午後、日本共産党のズーム会議に参加し、小矢部市の現状を報告しました。



4日は、植生地区の吉和台に行き、水道の断水が一部で続いていること、屋根瓦が落ち、外壁がはがれている家の状態を確認しました。道路にき裂が入り、傾いている家が複数ありました。

めに、農薬や化学肥料を使わない有機農産物を学校給食に取り入れることを求めている。地元食材を使う地産地消は、地元の農業振興と同時に、生産過程が把握しやすいため、より安全な食材を確保するために必要だ。

炊飯事業者 他産地米といっしょに炊飯

私は、8月に小矢部市が委託している民間炊飯事業者を訪問し、学校給食に使われている米の供給の仕組と炊飯および配達の状態を聞いた。炊飯工場では午前3時30分から炊飯し、小矢部市分の配達は午前8時30分に出発し、各学校に届けられている。小矢部産の米は、コシヒカリと富富富が使われている。この米は、JAいなばから小矢部産の玄米が、富山市にあるJAライフに運ばれ、精米されて炊飯業者に届けられている。私は10月にJAライフの精米工場を見学し、説明

市定住支援課でり災証明書を さまざまな支援があります

5日、市の上下水道課と都市建設課に行き復旧予定などを聞き、被災者に市の対策を伝え、応急危険度判定後の修繕に対し、補助があることをお話ししました。

小矢部市では、一部損壊が増え続けており、1月8日の報道では、187件になっていきます。被害を受けた方は市定住支援課でり災証明書を受けてください。災害救助法による様々な支援を受けることができます。



国道359号の道路陥没現場で坂本ひろし党県書記長(左)=5日

しかし、炊飯事業者の工場では、コシヒカリも富富富も、コメの品種が同じであれば小矢部市以外の産地の米といっしょに炊飯していると聞いた。100%小矢部産の米を、小中学生に食べてもらうためには、新学校給食センターに最初から炊飯設備が必要だ。

「教育委員会事務局長」当初に炊飯機能の導入には多額の費用を要する。

有機農業育成にもつながる

【上田市議】給食食材である米の地産地消を進めるために、新学校給食センターに炊飯設備を設けることは、小矢部市で有機農産物栽培に取り組む農家の励みになり、農業振興につながることを強く主張する。